

2013年 第1回 特別展

ま ち

空襲を伝えるドイツの都市 ドレスデン・ベルリン・ハンブルク

2013年 2月16日(土)~4月7日(日)



連邦軍軍事史博物館(ドレスデン)

主催・場所 東京大空襲・戦災資料センター

共同企画・制作 和・ピースリング

制作協力 木戸衛一(大阪大学准教授)・柳原伸洋(東海大学講師)

協力 大阪空襲訴訟を支援する会・NPO 法人日独平和フォーラム

開館 水~日曜日 開館時間 12:00~16:00 休館 月・火曜日 入館協力費 一般 300円 中高校生 200円 小学生以下無料

[関連企画] 講演会 主催 和・ピースリング 助成 大竹財団

空襲体験をどう継承するか ードイツ・ドレスデンからゲストを招いて

ゲスト マティアス・ノイツナー氏 (「1945年2月13日」協会代表)

大阪 3月13日(水) 13:30

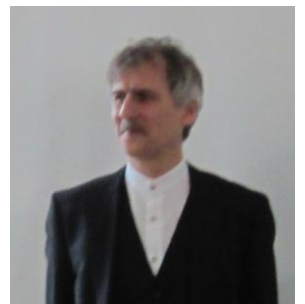
会場 大阪市立中央会館 ホール

(地下鉄堺筋線・長堀鶴見緑地線「長堀橋」下車 徒歩6分 大阪市中央区島之内2-12-31 電話 06-6211-0630)

東京 3月16日(土) 14:00

会場 東京大空襲・戦災資料センター(地図裏面参照)

発言 早乙女勝元ほか



ゲスト・プロフィール/1960年生まれ。1987年、ドレスデン空襲の証言記録・継承団体を設立。ドレスデン空襲の死者数調査委員を務めた。

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

Tel 03-5857-5631 / Fax 03-5683-3326

Web <http://www.tokyo-sensai.net/>

開催趣旨

2012年2月、東京・大阪から日本の空襲体験者や市民が、ドイツの空襲被災都市・ドレスデン、ベルリン、ハンブルクを訪れました。

ドイツでは、ベルリンの壁崩壊後、大規模な都市再開発が進められる一方、街並みのなかに、戦争や空襲の記憶を残していく取り組みが行われています。また、統一後のドイツ社会では、経済格差を背景に、排外的な思想に引き寄せられる若者や、加害の事実を無視し、自国の被害のみを喧伝する活動も見られます。それに対して、自国の加害をふまえつつも、空襲を忘れないための行動やかつての交戦国と和解する取り組みが、多くの市民によって開始されています。

こうした、ドイツ市民や社会のあり方は、アジアで生きるわたしたちにも、ヒントを与えてくれることでしょう。

本展では、今回の旅で得られた写真や映像、市民との交流の記録を通して、ドイツにおける空襲被災都市の現在の姿を紹介し、未来に向けて、空襲体験をどのように継承していけるか考えます。

[東京大空襲・戦災資料センターでのイベント]

●オープニング・イベント

2月16日(土)18:00

展示解説「ドイツの空襲被災都市・市民に学ぶ」

※ドレスデンとのインターネット中継を予定

和・ピースリング(本展共同企画・制作市民グループ)

●公開研究会

2月23日(土)13:30

「空襲展示の意義と課題—日本とドイツの空襲展示の比較を通して考える」

南守夫(元愛知教育大学教授・ドイツ現代史)

ケストナーファンのみなさん
大歓迎!

●親子企画 3月23日(土)14:00
ケストナーを知っていますか?
—ドレスデン生まれの作家、
ケストナーの作品を楽しむ
講演『エーミールと探偵たち』を追いかけて
本田雅也(ドイツ文学・児童文学研究)
朗読『わたしが子どもだったころ』ほか
場所 東京大空襲・戦災資料センター

【交通アクセス】

▼東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線

「住吉駅B1」出口から徒歩15分

▼JR「秋葉原駅」中央改札口出て左の2番

バス乗り場から都バス「葛西駅行」(秋26)

で35分「北砂1丁目」下車 徒歩2分



ドレスデン 2005年に再建された聖母教会



ベルリン 空襲の跡を保存するための工事が進む
ヴィルヘルム皇帝記念教会



ハンブルク ニコライ教会の一部

